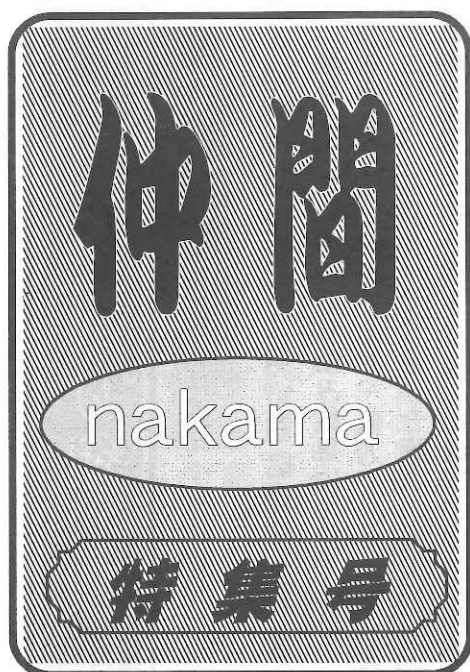




主な内容

- みんなで取り組む課題 ----- 2
- 高齢者の就労対策要請 ----- 3
- 300号記念メッセージ ----- 4
- 「仲間」300号発行、おめでとう--5
- ひろば、クロスワードパズル 6、7
- 「仲間」300号発行、おめでとう- 8
- 「仲間」300号発行、おめでとう- 9
- 西から東から ----- 10
- 行楽（歴史街道・枚方宿散策）--- 11
- 編集後記、まちがいさがし答え ---- 12

発行所

全日本建設交運一般労働組合（建交労）

京都 事業団・高齢者部会

〒601-8103

京都市南区上鳥羽仏現寺町43番地

Tel.075-691-1007 Fax671-1641

Eメール=kenkourou@titan.ocn.ne.jp

発行日 毎月5日 一部 30円

NO. 300 (2021年) 3月号



雪を被った比良山系の山々 上林 常哲

みんなで取り組む課題

京都支部

第4回執行委員会が2月17日に開催されました。

1、要求アンケートの取り組み結果について

○事業体別では、シルバーⅡ一四人、ワークⅡ六人、宇治Ⅱ二人、京都Ⅱ一七八人、介護Ⅱ一八人。

○年齢では、59歳以下Ⅱ六人、69歳以下Ⅱ五七人、79歳以下Ⅱ一四四人、80歳以上Ⅱ一七人

○性別では、男性Ⅱ一四九人、女性Ⅱ九三人、合計二四二人(組合員の66%)の集約となった。

【集約結果について、簡単な説明と解説が行われた。

また、結果については、早速府・市の要請懇談の中で活用していることも報告された】

2、事業団などの就労の課題

入札状況、就労状況、職場・現場の状況などの意見交換を行った。【執行委員会での発言を参照】

3、京都支部の取り組み

①京都高齢者事業団との労使協議Ⅱ3月17日(水)

②宇治分会労使協議Ⅱ3月26日

③組合機関誌「仲間」の300号(3月号)を記念する取

り組み【別記】

4、建交労中央、事業団・高齢者部会の取り組み

建交労中央行動は3月4日に行われるが、全国事業団・高齢者部会は時期を見て「厚労省要請」を行う。

5、建交労府本部の取り組み

①府本部執行委員会Ⅱ2月26日(金)

②府本部春闘決起集会

○日時Ⅱ3月6日(土)10時～ 場所Ⅱ高齢者会館

③ハローワーク前アンケートの取り組み

○日時Ⅱ3月17日(水) 午前9時～10時30分

6、高運連の取り組み

「敬老乗車証を守ろう」署名の取り組みを強める

7、その他

「組合規約」の改定版を全組合員に配布する。

●今後の執行委員会開催予定

第5回執行委員会 3月17日(水)午後2時～

第6回執行委員会 4月21日(水)午後2時～

【300号記念・クロスパズル】

「仲間」300号発行を記念して、組合員参加の取り組みをクロスパズルのため、集まらない取り組みとして「クロスパズル」を行い、当選者20名にクオカードを進呈することとしました。「クイズ」は7頁に掲載しています。奮ってご応募ください。

高齢者の就労対策を要請

＝京都事業団高齢者部会＝

京都府への要請

▼ コロナ過の中、京都事業団・高齢者部会／建交労京都支部は時間と参加者を抑えて、2月4日京都府へ、2月16日京都市への要請・懇談が行われました。 ▲

京都府への要請は、部会から中村部会長始め3人と府本部から斎藤府本部特別執行委員が参加し、京都府からは労政課の担当者2人が参加されました。

最初に、部会長から要請の主旨を述べ、続いて京都府の担当者から要請書に基づいた回答を受けました。その中で、「全世界代型社会保障改革」の撤回要請について、国の財政負担軽減が目的でなく、社会保障制度を持続させるもので、府としても生活実態をとらえた住民本位のものにする必要を要請している。就労支援では、ジョブパークなどと連携して取り組

みを強めている。高齢者に就労を促進している団体への配慮を求める文書を各課、出先機関に出している。法改正で「準ずる団体」として随意契約が可能になったが、透明・公正・協調性を重視しており困難である。生活困窮者自立支援に年齢者の就労課

京都市への要請

京都市への要請は部会から中村部会長と松永書記長、山内書記次長など人と、府本部から斎藤府本部特別執行委員が参加し、京都市からは働き方改革担当部長以下3人が出席して行われました。

最初に、部会長から要請の主旨を述べ、続いて京都市から要請書に基づいて回答を受けましたが、当日は担当課から出られないため、担当課から預かった文書の読み上げとなり

題や生活困窮者の実態、については中間就労と就労支援の窓口を開き、きめ細かな取り組みを行っている。などと話されました。

参加者からは、高齢者の置かれている現状を自らの経験などを通して訴え、アンケート集約結果をもとに、働くことで生活を維持している高齢者の実態を訴え、要請項目の具体化と高齢者の施策を強めて貰いたいと訴えました。

ました。その中で、生活困窮者自立支援については前向きの解答もありました。

参加者からは、京都府と同様に組合員から集約したアンケートの結果などをもとに、働くことで生活を維持している高齢者の実態を訴え、要請項目の具体化と高齢者の施策を強めて貰いたいと訴えて終了しました。



間隔を開けての要請

建交労京都支部／京都事業団高齢者部会 機関誌「仲間」 1964年4月～2021年3月号で 300号を迎えました

建交労京都支部／京都事業団・高齢者部会の機関誌「仲間」が、300号になりました。大きな節目として特集を組みました。仲間からのメッセージや意見・感想など投稿して頂きました。

建交労中央本部

編集部 一同

貴誌「仲間」が発行300号を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。充実した誌面を維持しながら定期発行を継続し、300号に到達されたねばり強い努力と奮闘に深く敬意を表します。中央本部でも京都から毎月届けられる貴誌をいつも楽しみにしております。仲間たちによる取り組みに参加した感想と決意、写真や名勝案内などの記事は、組合内外の仲間が楽しめる内容です。組合員との繋がりを強めていく上で機関誌の果たす役割は重要であり、このコロナ禍の困難な状況の中でも定期発行されていることは大きな意義を持っています。全日自労時代からの歴史と伝統を継承し奮闘する「仲間」の益々の発展を祈念し、メッセージいたします。

建交労京都府本部

書記長 早田 武彦

京都支部「仲間」300号発行に、心からのお祝いのメッセージを送ります。

支部の組合と京都の多様な労働組合に25年以上の長期にわたり、毎月5日に発信を続けてこられました。毎回、活動を紹介し、今後の活動などを提起されています。

「みんなで取り組む課題」では具体的な行動を提起され、「西から東から」では活動報告を展開されています。「ひろば」では、組合員からの意見を紹介しています。一方的な報告ではなく、双方の情報交換を機関誌の中で展

開しています。情報収集から発信、読者の反応を紙媒体で展開しています。それは、不安定な雇用や格差の拡大、貧困の固定化なども問題を解決していくことにも寄与しています。この機関誌活動は、組織を活性化させ維持・発展させる原動力となっています。

また、毎年の建交労中央定期大会における、機関誌コンクールでも高く評価され、毎回表彰をうけています。地道な努力と組合員の協力のもとで発行を続けている機関誌「仲間」は、仲間をしつかりと支え、励ましてくれる存在であり続けることに敬意を表します。そして、みなさんと一緒に仲間を守っていきましょ

機関誌「仲間」の役割 京都高齢者福祉事業団

木ノ下 貴之

「仲間」300号を単純に計算しますと25年間継続されてきたことになります。一つのことを地道に続けられてきたスタッフの方に敬意を表します。今は「仲間」がある

「仲間」300号発行、おめでとう。

のがあたり前ですが、私が入団した当初は、機関誌らしきものはないように記憶しています。高齢者事業団は、現場や職種も数多いので一体どういう現場があつてどんな仕事をしているのか、他の現場の人にはわからないですし、そこでみんなにいろいろな情報を共有し、高齢者事業団の実情を知つても

らうため、当時の組合の役員さんが協議し出来たのが機関誌「仲間」でした。組合員が参加できる情報誌を心がけ、現在も続いているのはすごいことだと思います。編集委員をする人が少なくなり発行し続けるのも一苦労だと聞いています。今後引き続きみんなの協力を経て、400号めざして頑張つて下さい。

仲間300号発行、おめでとうございます。

宇治高齢者事業団

加藤 眞久

300号と云えば、25年もの歳月になります。一口に25年と云つても、継続して発行することは、並大抵のことではありません。力石副委員長が、組合員が組合を身近な組織として感じてもらえるように、組合の方針を一方

的に載せるだけの上からの目線ではなく、組合員の声を反映してもらえらうに、ひろばコーナーで職場の声や、仲間の声が反映できるように、また川柳など組合員からの投稿によって誌面を豊かなものにし、読まれる機関誌にするために、心血を注いできたものです。また、仲間を見れば厚労省交渉や全国の事業団部会の取り組みがわかる機関誌です。

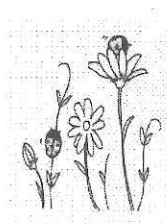
【機関紙】でなく【機関誌】にしたのも内容を充実させるためです。これからも、組合の宝として引き続き発行されるようにお願いいたします。

仲間にも愛された機関誌
ワークセンター

原田 康正
建交労京都支部の機関誌「仲間」、300回の発

行には、25年の歳月がかつたわけですが、書記局や組合員の皆さんのご努力の賜です。「仲間」は、毎年、建交労中央定期大会の「機関誌の部」で表彰され、仲間にも愛読されています。私は、「仲間」への投稿はあまり出来ていませんでしたが「仲間」の一つの魅力は、長年掲載されている「行楽」のページです。3年前まではワークセンターの中路米造さんも頑張つて記事を集めて下さいました。

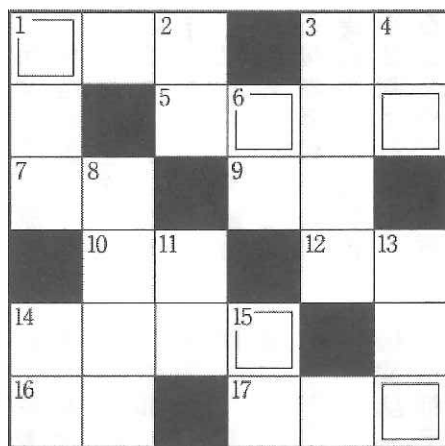
コロナ禍で大変ですが「仲間」を活用して組合員の拡大で、働きやすい・生活しやすい世の中にしていきたいと思います。



300号記念 クロスワードパズル

【ヨコのカギ】

- ①——ゴミの回収は有料
- ③マッチ1本——の元
- ⑤主となる審判員
- ⑦新聞に載せる文
- ⑨液体が気体に
- ⑩タテと——
- ⑫栗鼠
- ⑭日本——、五島——
- ⑯有田焼や九谷焼の類の焼き物
- ⑰設立。大学の——者



【タテのカギ】

- ①——発見で治療
- ②——にかじりついても
- ③金銭の——は禁止
- ④大坂冬の——
- ⑥——だるま、——合戦
- ⑧大——のビール
- ⑪——と言えば京都と奈良
- ⑬心ばかりの贈り物
- ⑭商店で——打ちバイト
- ⑮——も方便

- ★ カギを解き二重枠の字を並べてできる言葉を答えて下さい。
 ★ 正解者の内、抽選で20名の方に、クオカードを進呈します。
 ★ 解答・住所・氏名を記入して組合事務所へ【メール・ファックス・郵便・手渡し】いずれかの方法で届けて下さい。 【 締 切 = 3月30日(火) 】

「仲間」300号発行、おめでとう。

趣味など載せて交流を
 京都高齢者福祉事業団
 青木 弘毅
 高齢者事業団に入り、9年目を迎えます。その間、共済会の日帰り旅行、5月のメーデー、12月の忘年会などに参加しました。楽しい思い出です。以前、「仲間」に自分の趣味として作っている「ミニ茅草の家」を紹介してもらいました。現在も作っています。組合員の間にも、何らかの趣味をお持ちの皆さん、一緒に「仲間」に載せてもらいたいです。



載されることを要望します。これからの元気で就労できることを願う仲間、皆さんと共に頑張りたいと思います。

「仲間」で好い思い出
 京都高齢者福祉事業団
 洗 宜子

300号を迎えて、私の思い出は、バス2台で行った与謝郡伊根町の舟屋への日帰り旅行の楽しかったこと。山の深い緑を背に伊根湾に沿って昔のままに軒を並べる舟屋の風景は、まるで絵画のようでした。その後の旅館でいただいた捕れたてのアジをはじめ、自分で焼く焼き魚がとっても美味だったこと。また、お風呂やほろ酔い気分のカラオケのかけあい楽しかったです。コロナが治まり機会があれば仲間の団員さんと一緒に再び

旅行ができそうですように願っています。

投稿が楽しみ
 建交労京都府
 本部 書記局
 浦田 房子

京都府本部で働き始めてから読んでいます。届いたらまず「まちがい探し」そしていろいろな情報がつまったページを順に読んでいきます。ひろばの活動報告・仕事・自分の思い・趣味など、組合員さんの前向きな投稿は楽しみです。細かく調べてある「行楽」は、自分の参考になっています。続けていくことの大変さはあると思いますが、今までの積み重ねを大切に今後の「仲間」も楽しみにしています。

継続は力なり
 京都高齢者福祉事業団
 岡本 朗
 300号、真に継続は力なり、永く続くことを祈念しております。この辛い時節の中仲間にも感動してもらえたらと思います。

すったもんだしたオリピックの性別問題、昭和生まれの高齢者としては森氏に同情的です。新聞でAEDの使用をめぐる男女間で差がある事実を知りました。これは差別でなく、女性の胸部への心遣いから出た結果です。しかし、その善意のために亡くなられる事例もあり、男性と同じ時短の処置が出来るようにと大阪の女子高生が見事な発案をし、医療界からも称賛されました。その価値ある製品です。

川柳

京都高齢者福祉事業団・OB

池田 東一

川柳で 三百号に 花添える
 白い息 吐いた朝刊 ありがとう
 枯れた蓮 くの字に折れて 凍る池
 枯れ落葉 速度違反で 道走る
 春近し 夜通し叫ぶ 猫の恋
 新年も コロナトンネル 抜けられず
 冬立木 宿り木育つ 枝見つけ
 過疎の山 猪撃つ音が こだまする
 雪の夜 屋台を引いた 京の街
 人情の 温り残る 裏通り
 肩濡らし 女房を庇う 二人傘
 草津の湯 明日は城崎 我が家で湯
 自粛して 温泉気分 のんびりと
 押し入れに 母の名記した 鯨尺
 紅梅が 淡雪被り 震えてる
 黄な粉餅 負けた力士の 砂の腹
 百眼 集う縁日 猿回し

これで救急救命士も遠慮なく一刻を争う治療に専念できます。AEDの使用に関しては、今初めて男女平等になった訳です。素晴らしい柔軟な頭の女子高生には敵いません。参りました。拍手喝さいを送るだけです。

存在意義ある「仲間」

宇治分会 嘉村 茂

労働組合のあり方が危惧されている昨今におきまして、25年以上の永きに渡り発行されて来たことに、編集されている皆様には感謝申し上げます。今日、高齢者に取って年金だけでは、生活出来ない現状において、社会情勢も目まぐるしくかわり組合運動の活性化が望まれる所です。建交労という傘の下でぬくぬくと過ごして行く時代は、過ぎた様な気がします。組合員一人一人の自覚が望まれる所です、益々「仲間」の存在意義が増して行くと思います。これからも末長く発行される様お願い致します。



機関誌「仲間」に思う
シルバー・西浦公園

焼山 虎治

機関誌は人となかまを繋げる大切なもので「仲間」を毎月楽しみにしています。2月号で「高齢者の実態アンケート集約」が載っていて興味深く観

ました。生活の実態は「まあまあ、やや苦しい」が圧倒的に多く、社会保険料や医療費の負担が重く、や

つと生活を送っていることがわかりました。

私たち、高齢者をさらにくらしめる後期高齢者の75歳以上の窓口負担を2割に引き上げることや、京都市

においても敬老乗車証を75歳からにし、自己負担を増やそうとしており、不安や怒りが広が

「仲間」300号発行おめでとう

っています。私たちが安心して豊かに暮らせるそういう社会になってほしいと願わずにいられない今日この頃です。

「仲間」は情報源
京都高齢者福祉事業団

中村 親

定年制も55歳、60歳、65歳になり。年金支給も55歳、60歳、65歳に延ばされ、労働力・人口は高齢者の割合が右肩上がり、年金支給額は右肩下がり、の減額に。健康で働く、高齢者の様子等々を「仲間」で紹介されており、役に立っています。継続して発行を続けて下さい。

機関誌「仲間」に投稿を

京都支部 霧島 亜也

「仲間」発行300号ということで、久しぶりに投稿させて頂きました。私が組合の仕事に就き、10年が経ちました。その

間、毎月発行される「仲間」の編集から発行に至るまで間近で見えてきました。数少ない投稿、今ではコロナの影響で会議や要請行動も減り、少ない資料の中、中村委員長が悪戦苦闘しながら編集されています。コロナ禍で今思うこと、身近な出来事、何でも投稿され継続されることを願っています。

「仲間」300号に思う

宇治分会 山本 潔

「仲間」は25年間という長期間、組合員に参考になる情報などを発信し続けて来られ、作成スタッフの労苦に感謝と敬意を表したいと思います。組合員が取り組む課題では組合が取り組んだこと、そして今後取り組むことを時系列で掲載され、組合員として一体感が持てます。また「行楽」では、毎回思うのですが詳細に

現地をルポされて大変勉強になり、いつか行こうという気持ちになります。組合活動と違い、気分的に癒されます。これからも大変とは思いますが楽しみにしていますので続けてルポをお願いします。最後に「仲間」がこれからも継続発展していくことを祈念し、エールを送りたいと思います。

「らしからぬ」ところが良い

京都高齢者福祉事業団

松本 恵美子

高齢者事業団で働くようになって13年になります。「仲間」は最初は難しいなと思っていましたが、読むようになってからは「広場」「行楽」「編集後記」を読み、そして取り組みや高齢者社会の動きなどです。機関誌なのに「らしからぬ」ところが良いです。これからも続けてほしいです。

「仲間」300号発行、おめでとう。

「コナ禍で頑張る「仲間」
京都高齢者福祉事業団

松永 雅明

機関誌「仲間」は、組合の活動方針、活動報告の掲載から、運動を進めるための学習資料の添付まで丁寧に掲載されています。特にこの1年は、コナ禍の中で通常の組合活動が制限され、「仲間」の誌上を通しての組合活動の方針徹底と組合員さんの意見交流が大切になっていっていると思います。

ワークセンター

小崎 敏郎

創刊300号おめでとうございます。前年度より執行委員になりました。働く仲間の横のつながりを保つため益々続けられますことを祈っています。少しでも良い社会になるように頑張ります。

「仲間」で協力できること
京都高齢者福祉事業団

橋本 厚男

「仲間」の発行にあたり、原稿集めや内容についてご苦労されていることと思います。記事の「組合の取り組み」にしても、身近なものから国に対するものまで多岐にわたります。「行楽」では毎月「大変だなア」と思っています。せめて「ひろば」への投稿で協力出来れば良いなと思うものの

300号までのアレコレ

- ◆1996年4月の全日自労建設一般京都府本部の執行委員会において「みんなの機関誌」を作ることが決議され、5月号から当初は無題で「B5版12頁」で発行されました。
- ◆標題は募集を行い、34人が応募され、その中から三木八重子さんの「仲間」が選ばれ、3号から使われています。
- ◆表紙は当初は、編集部が写真などを載せていたが、2000年1月号から写真サークルの井上喜八、高橋正清、水谷一雄の皆さん、2001年8月号から絵画サークルの家田隆護、谷英二、女坂良三、東出義弘、上林常哲の皆さんが飾ってくれました。サークルが解散した後、上林常哲さんと杉本章夫さんに現在も書いて頂いています。
- ◆当初は「短歌」が掲載されていましたが、2009年11月からは池田東一さんの「歌詞・川柳」の掲載が始まり、現在もひろばの頁を飾ってもらっています。
- ◆行楽は、2002年4月の73号から書かれて228回連載されています。行先は京都市内113回、京都府下56回、近畿圏48回、その他11回でした。筆者は15人で、井上志郎さんの5年68回と、中路米造さんの7年86回がダントツです。
- ◆全日自労建設一般の時代に「機関誌・紙コンクール」が行われ、1997年から2020年の現在まで入賞を続けています。

書くことが不得手な私には無理があります。有難いことに「身体」はまだ動きまです。身体を使うお手伝いなら惜しみなく協力させて頂きたいと思っています。「蟻の法則」の真ん中の60%の内の一一人として。

楽しんで読む仲間

ワークセンター

山内

登

一口で300回と云われますが、通算25年に渡るん

です。歴代の編集部の方に心より敬意を表します。12頁の機関紙を毎月編集・印刷・折り込みを行い、発行する労働組合は全国でも稀だと思っています。「ひろば」で組合員の投稿や、全国の組合活動の紹介、川柳やクイズ・行楽など内容も豊富でいつも楽しみにしています。400回を迎える時元気に「仲間」が読めるように体調管理もしながら仕事にも励みます。



■敬老乗車証を守ろう連絡会がリレー宣伝

2月20日、敬老乗車証を守ろう連絡会が市内を宣伝して回る「リレー宣伝」を行いました。

敬老乗車証制度は、京都市が「長年にわたり社会に貢献してこられた高齢者に敬老の意を表すとともに、様々な社会活動に参加し、生きがいづくりや介護予防に役立てる」ことを目的に70歳以上の市民の方を対象に創設されたものです。

その制度を京都市は、財政危機を理由にして、①対象年齢を5歳数年かけて段階的に引き上げる、②利用者の負担金を2倍弱とする、③実施は早ければ来年度から実施する。などを考えています。

**市民の「宝物」敬老乗車証を守り、
充実させるため、署名にご協力を！**

この日は、駅前やスーパー前などで宣伝が行われ、①署名運動をさらに強めていること、②コロナ禍で財政危機と云いながら大型事業は「聖域化」し、市民に必要なサービスを削ろうとしている、③高齢者にとって必要と云うだけでなく、経済的な効果も大きいので守るべきだ。などと訴えました。

京都支部も取り組みを進め、署名と共に意見や要求が寄せられています。その一部を紹介します。

◆自己負担の引き上げとんでもない。年寄りから金をとるな！

◆現状の継続、または自己負担金をもう少し引き下げ高齢になっても外出しやすい機会の確保を希望します。

◆敬老乗車証が使用できるようになり、外に出かけ、人にも会えて喜んでいます。敬老乗車証制度の改悪中止を求めます。

◆財政が苦しくなるとすぐに値上げに走る悪い癖！今はどこも苦しく耐えています。無駄遣いは本当

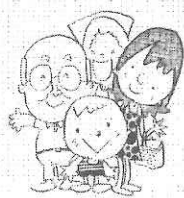
にないのかもっと考えるべきです。組合員の皆さん署名を集め、返送して下さい。

■京都市市民総行動実行委員会が京都市予算案緊急学習会

2月18日、2021年度京都市予算案の問題点を学ぶ「緊急学習会」が開かれました。

京都市は財政危機を理由に住民福祉施策のカット、職員削減、補助金の総点検施設利用料の改定などを行うおうとしています。これに対して、高齢者、保育、医療、生活保護、業者などの各団体から市政の現状を告発されていました。最後に実行委員会を代表して市職労の永戸委員長から「予算案の問題点を学び、怒りと告発の行動を広げよう」と呼びかけられました。

この学習会の内容は、京都総評のYouTubeで動画配信されています。



行楽

水陸交通の要所

歴史街道・枚方宿を散策

京都支部 中村 崇

今月は、コロナ過のため、出かけるのを中止して、以前に行った枚方（ひらかた）の歴史街道を紹介します。

枚方と云えば「菊形」のイメージしかなかったのすが、この地は江戸時代、街道整備で京都と大坂を結ぶ京街道として、伏見・淀・枚方・守口の4宿を設け、枚方も宿場町となり、街道沿いに今も残る立派な町屋が、枚方宿の繁栄を感じさせていました。

京阪「枚方市駅」を降りて案内板に沿って歩き出し、駅近くは賑やかな繁華街でしたが、少し歩くと本陣跡の標識があり、このあたりから昔風の町屋などもあり風情もありました。さらに歩くと、浄念寺があり、蓮如上人ゆかりの「岩見入道浄念」



街道沿いに町屋を利用した店

が1495年に開創し、戦国時代を経て本願寺勢力の低下や枚方宿形成により衰退したと書かれていました。

この先に今回の目的の一つ「市立枚方宿鍵屋資料館」があります。「鍵屋」は、江戸時代には宿屋を営み、すぐ横は淀川。

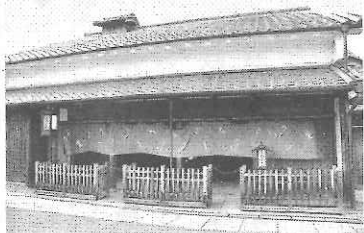


江戸時代は西御坊と呼ばれた浄念寺

表玄関が京街道に、裏口が淀川に面しており、船の乗降に便利な旅籠として、幕末頃になると淀川三十石船の「船待ち宿」としても繁盛しました。近代以降は、枚方きつての料理旅館として枚方周辺の人々に利用されていましたが、1997年に閉店。その後、2001年に19世紀初頭の町家建築の構造を残した建物として枚方市有形文化財「市立枚方宿資料館」に模様替えして町並みのメインスポットとして開館されたものです。

敷地内には、「主屋」と「別棟」の2つの建物があり「別棟」は、昭和初期に建築されたもので、1階には枚方宿関係の史資料や発掘遺物、民俗資料や、三十石船の乗客相手に「餅食らわんか」と飲食物を売る「くらわんか舟」の実物大レプリカも展示され、枚方宿の歴史を紹介し、歴史的建造物の中で往時の旅の雰囲気を感じ、また彫刻欄間や格天井など、料亭だった頃のしつらえを楽しむことができます。

この後、淀川の堤防に上がると広い河原が広がっていました。少し堤防沿いに歩くと「淀川資料館」がありました。淀川水域のことや生き物などが詳しく展示されていて、特に豪雨による洪水や堤防の決壊の歴史と、水害と改修の歴史について学べる場所ですが、【緊急事態宣言】発令中のため、休館していました。



市立枚方宿鍵屋資料館



編集後記

◆「仲間」300号発行にあたり、思いや感想、意見など多く寄せられ、多くのページを飾ることができ、うれしい限りでお礼を申し述べたい。

◆この記念する時だが、コロナ感染予防のため、多くの取り組みや集会が中止・延期ないし「オンライン会議」となっている。新聞や機関紙の多くが減ページを余儀なくされている。◆先日「緊急事態宣言」が国民的感情よりも経済的な思いで解除された。ワクチン接種の課題は満足に進んでいないのに大丈夫だろうかと不安が先に立ち、早期に解消することを願っている。◆このコロナ禍の中で、政権側から様々な問題行動や発言が出ている。今の大きな問題の一つに、森氏の「女性蔑視」発言がある。これは明治以来の時々々の権力側が作ってきた「帝国憲法」や様々

な「制度」上の根幹にかかわっている問題を含んでいる。彼は「してやろう」と思わず、無意識に普通の言葉として発出したのであろうがそれが怖いのである。◆個々人の心の中を開いてみることは出来ない。だから「自制心」と言うものがあり、それによって社会が規律を持つて動いてきたのでは。◆今の自公政権にはあまりにも「自制心」が効かない人が多すぎる。今の政権がコロナ禍の中、国民や事業者に「自粛」するよう決めても、決めた政権内部の者がそれを破る。そして誠意のない謝罪一つで処理してしまうことがまかり通る。◆安倍政権の時に「付度」と云う言葉がよく出たが、それまでそのような言葉は知らなかった。安倍政権は人事権を握ることで「付度」する公務員の心をもてあそんだ。その懐の中にいて政権を引き継いだ菅政権は、やはり「付度」する特別職公務員を操り、彼の政治を動かしている。国民をなめているのか。(中)